

「富山県の交通の様子」

- 学習のねらい
過去と現在の富山県内の交通の様子や公共交通のよさから、公共交通の役割や価値について考える。
鉄道と市街地の関係について考えることを通して、富山県の鉄道の様子と主な都市との関係について理解する。
- 対象学年・教科
4 年生 社会科「富山県の広がり」

学習指導要領での位置づけ

内容（１）ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
（ア）自分たちの県の地理的環境の概要を理解すること。
（イ）地図帳や各種の資料を調べ、白地図などにまとめること。
内容（１）イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
（ア）我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。
交通網に着目するとは、主な駅や港、空港の位置、県内を通る主な道路や鉄道などの交通網の広がりについて調べることである。主な道路としては高速道路や主な国道や県道などが考えられる。
実際の指導に当たっては、県の地図や地図帳を十分に活用することが大切である。

- 時間数 2 時間（単元は 8 時間）

1 次	富山県の地形の様子について知ろう。 （2 時間）	- 自分たちの富山県の様子に関心をもち、県の位置とその周りの県を理解する。 - 白地図を利用し、富山県の地形の様子を知る。
2 次	富山県の土地利用の様子や市町村の様子について調べよう。 （2 時間）	- 白地図を利用し、富山県の土地利用の特色を地形と関連付けて考える。 - 富山県の市町村や主な都市について知る。
3 次	富山県の交通の様子について知ろう。 （2 時間）	- 自家用車の利用台数と公共交通の利用者数との関係から、公共交通の移り変わりを理解することで、これからの公共交通の役割や価値について考える。 - 鉄道と市街地の関係について考えることを通して、富山県の鉄道の様子と主な都市との関係について考える。
4 次	富山県の主な産業について知ろう。 （2 時間）	富山県の主な産業について調べ、白地図にまとめる。

- 準備物
プロジェクター、スクリーン、実物投影機
- ※ 白地図（富山市小教研社会科部会編）を活用するとよい。

■授業の展開例（1 時間目）

（1）ねらい

自家用車の利用台数と公共交通の利用者数との関係から、公共交通の移り変わりを理解することで、これからの公共交通の役割や価値について考えることができる。

（2）本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
10分	1. 自分たちと公共交通とのつながりについて考える。 ■発問1 ・みんなが普段利用する乗り物は何ですか。 ■指示 「富山県が自家用車の世帯当たり普及台数第2位」の資料を提示する。	・日頃の生活経験を想起させ、自分がよく利用している乗り物を考えるように発問する。 ・資料から、自家用車を多く利用する自分たちの暮らしを理解させる。
15分	2. 鉄道やバスなどの公共交通の大切さや問題点について考える。 ■指示 「公共交通と市街地（住宅の多いところ）」、笹津線の写真、佐伯宗義の資料（「わたしたちの富山市」P29にも掲載）を提示する。 ■発問2 学習課題を提示 学習課題 「なぜ、佐伯宗義は笹津線や射水線を廃止したのだろうか」	・写真や路線図から、50年前は、富山地方鉄道の笹津線や射水線という路線があったことに気付かせる。 ・富山地方鉄道の創立者、佐伯宗義が地域の人々の生活の向上に向けて、取り組んでいた思いと廃線という事実との矛盾から、学習問題を提示する。
15分	■指示 ・「公共交通の利用者数と自家用車保有台数」のグラフを提示する。 ■発問3 ・これから先は、公共交通はどうなっていくのだろうか？ ■指示 ・「公共交通（鉄道）を利用する人」のグラフと「富山県の人口推移」のグラフを提示する。	・グラフから鉄道の利用者数の減少と、自家用車保有台数の増加の相関関係に気付かせ、自家用車を多く利用することによって、鉄道路線が廃線することに気付かせる。 ・今後、公共交通が減少していくのではないかと、子どもたちに将来の公共交通の様子について予想を促した後、再びグラフを提示し、地鉄電車の利用者が近年増えていることに気付かせ、その理由を2つの資料から考えさせる。 ・50代や10代の利用者が多いことに気付かせる。 ・今後、60代が約40％に増えることから、お年寄りにとっての公共交通の必要性や価値が大きくなることを考えさせる。
5分	3. 今日の学習の感想をノートにまとめる。	・公共交通がこれからも多くの人々の暮らしとつながっていることを示し、次時へのつながりとする。

■授業の展開例（2時間目）

（1）ねらい

鉄道と市街地の関係について考えることを通して、富山県の鉄道の様子と主な都市との関係について、理解できるようにする。

（2）本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
10分	1. 鉄道と市街地の関係について考える。 ■「公共交通と市街地(住宅の多いところ)」の資料を提示する。 ■発問1 電車の駅と市街地にはどのような関係があるでしょう。	地図上のピンク色の部分は人口密集地域であり、市街地ということを確認する。その上で、電車の駅周辺に市街地が広がっていることに気付くように促す。富山駅周辺、越中八尾駅周辺の写真を基に、駅の周辺にはたくさんの人が住んでいることに気付くように促す。その際、速星駅や上滝駅、呉羽駅や水橋駅など具体的に例を示すことにより、電車が市街地を結んでいることに気付くように促す。
25分	2. 富山県の交通の様子について考える。 ■指示 「富山県内の市街地（住宅の多いところ）と主な電車の駅」の資料を提示する。 ■発問2 - 電車の通り道を予想して、線をかきます。どんなことに気を付けてかけばよいでしょう。 ■指示 - それでは、線をかいてみましょう。 ○ あいの風とやま鉄道線 ○ J R 高山本線 ○ J R 城端線 ○ J R 氷見線 ■指示 「あいの風とやま鉄道線、J R 高山本線、J R 城端線、J R 氷見線をかきこんだ地図」を提示する。 ■発問3 - 線をかきこんでみて、気が付いたことはありませんか。 ■指示 「富山県内の全ての鉄道をかきこんだ地図」を提示する。	- 次の考えを類型化し、板書した上で、作業するように促す。 ○駅を探して結ぶ。 ○駅の向きを考えて結ぶ。 ○市街地や市街地の近くを通るように結ぶ。 - 一人一人が電車の通り道をかけるように机間指導を行う。
10分	3. 今日の学習の感想をノートにまとめる。	- 富山市や高岡市といった大きな都市には、電車が集まっていることに気付くように促す。 - 鉄道が富山県内のほとんどの市街地を通るとともに、大きな市街地に集まるなど、人口の多いところは交通の要衝となっていることに気付くように促す。 - 富山県の鉄道の様子と主な都市との関係について、理解できるようにする。